



分消湯 (ぶんしょうとう)

【処方コンセプト】元気がある方の浮腫などによる腹部の膨満感に。

浮腫（あるいは腹水など）の初期で、まだ元気があり、胸腹部に膨満感を訴える方に用いる。腹および脈には力があり、実証のむくみ（実腫）に使うファーストチョイス。体力が低下して虚証に陥らないうちに使用する。

◆ 浮腫には実腫と虚腫があり、「実腫は治りやすく、虚腫は治りにくい」といわれている。さらに虚すれば、不治の病となる。実腫には弾力があって、圧迫した凹みが直ぐに元に戻る。逆に虚腫は戻らない（虚腫には補気建中湯）。

◆ むくみの状態だけでは、虚実を見誤ることもあるので、全身状態の観察も重要。

◆ 腹満、心下痞硬があり、小便はやや減少して濃縮し、大便も秘結する（便秘）ことが多い。腹部膨満感は食後にひどく、腹が張って、ゲップや吞酸があり、少し食べても苦しくなる。

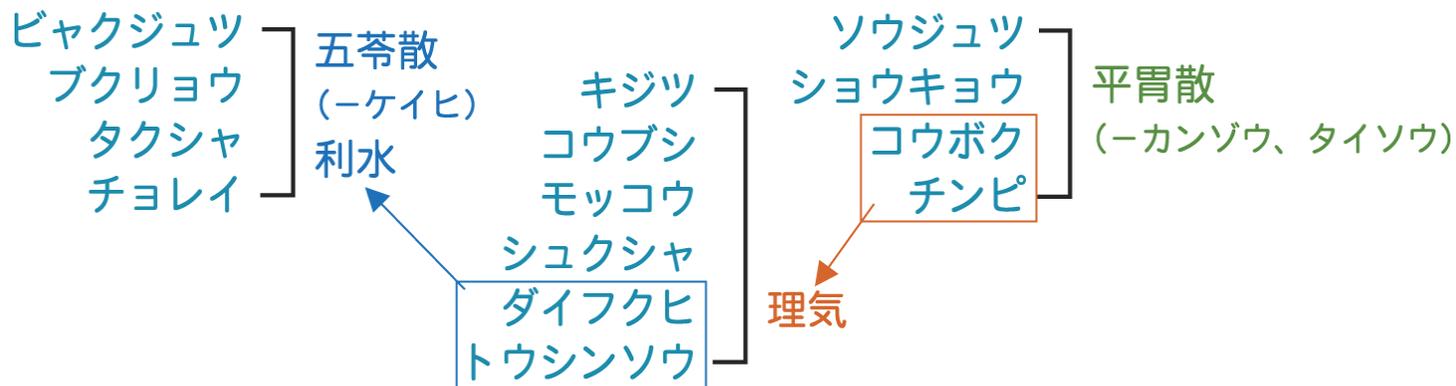


◆ 腹水、浮腫を急激に取り除いても、体力低下を来さない実証に適した利水剤である。

◆ 胸脇苦満があれば、小柴胡湯と合方する。肝硬変による腹水には、この合方が効果的である。

【処方構成】 14味

五苓散（一桂皮）に平胃散（一甘草、大棗）を合方して、理気薬の枳実（キジツ）、香附子（コウブシ）、木香（モッコウ）、縮砂（シュクシャ）、大腹皮（ダイフクヒ）、灯心草（トウシンソウ）を加えた処方である。気をめぐらし、食物停滞を改善し、利尿をつけ、主に実証の浮腫を改善する。腹部膨満や腹水、全身浮腫などに用いられる。



	利水(化湿)							補気		理気					解表				その他			配合生薬数			
	茯苓	沢瀉	猪苓	蒼朮	白朮	縮砂	灯心草	檳榔子	人参	甘草	厚朴	陳皮	枳実	木香	香附子	大腹皮	蘇葉	桂皮	生姜	呉茱萸	麦門冬		黄芩	大黃	
分消湯	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○			○						14

補気建中湯	○	○		○	○					○		○	○							○	○		9	
五苓散	○	○	○		○															○				5
九味檳榔湯	○							○		○	○	橘		○			○	○	○				○	11

処方名	類方鑑別
分消湯	元気がある方の浮腫・腹水(実腫)。実腫のファーストチョイス。
補気建中湯	元気がない方の浮腫・腹水(虚腫)。虚腫のファーストチョイス。
五苓散	小便の出が悪くむくむもの。ノドが渇いて水を飲むが、飲んだ以上に水分を吐く、腎臓の炎症による浮腫に小柴胡湯とよく合わせる。
九味檳榔湯	二便(大便と小便)から水を除く。虚弱者にはあまり向かない。特に足の浮腫によい